

第4期草津市地域福祉計画に係る 令和3年度の主な取組の評価および令和4年度 の主な取組予定について

第4期草津市地域福祉計画
「重点プログラム」

草津市健康福祉部健康福祉政策課

第4期草津市地域福祉計画の概要 重点プログラム

重点プログラム1 地域で活動する人の輪を広げます

子どもから高齢者まで幅広い年齢層に地域福祉への理解を促進し、地域活動の魅力の発信、活動団体相互の交流や情報交換等により、地域で活動する人をさらに広げる取組について、重点的に進めていきます。

1-1 人の輪を多世代に広げる取組

- ◆学校等教育機関と地域との連携強化
- ◆定年退職後の高齢者等の参画促進のための研修の実施

1-2 住民の力を合わせるための取組

- ◆地域ボランティアや活動機会の拡大
- ◆コーディネーター等の育成

1-3 市民とボランティア活動をつなぐための取組

- ◆ボランティアセンター機能の充実

重点プログラム2 市民の暮らしに根ざした交流を深めます

地域や近隣における日頃からの声かけやコミュニケーションを活発にできるよう、住民同士の良い関係を築く機会や社会参加・サロン活動等の場の充実、多世代による地域活動への参加機会の提供等、さらなるきっかけづくりに重点的に取り組んでいきます。

2-1 誰もが気軽に集える場づくり

- ◆身近な地域での交流の場づくり
- ◆地域の特性に合った小地域福祉活動の支援

2-2 幅広い年代が参加できる機会づくり

- ◆福祉を考える機会の提供
- ◆大学や社会福祉施設、地域団体等の連携による地域福祉活動の参加機会の提供
- ◆地域福祉事業・団体への支援体制の充実

第4期草津市地域福祉計画の概要 重点プログラム

重点プログラム3 包括的な支援体制の構築に向けた取組を進めます

「地域包括ケア」の理念を障害者や子ども・子育て家庭等への分野にも広げることで、複合化・複雑化した支援ニーズに対応する地域共生社会の実現をめざすため、分野横断的な包括的支援体制の構築に取り組んでいきます。

3-1 地域包括ケアシステムの深化・推進

- ◆地域ケア会議の開催
- ◆在宅医療・介護の連携
- ◆介護予防・生活支援体制の整備

3-2 分野横断的な包括的支援体制の構築

- ◆社会参加・生涯活躍社会の構築に向けた取組の推進
- ◆地域住民が主体的に公的支援と協働して地域課題の解決を試みるための体制整備
- ◆包括的な相談支援体制に向けた取組の強化
- ◆共生型サービス等の分野横断的な福祉サービス

重点プログラム4 災害や感染症への備えを進めます

全国各地で多発する地震・風水害等災害の発生、また本市でも独居高齢者や高齢者のみの世帯等が増加している状況から、災害時の支援体制を一層強化する必要があります。

また、地域福祉活動や施策・事業の展開において、新型コロナウイルス等の感染症に対して必要な情報提供・支援を行うとともに、「新しい生活様式」による感染症対策を進めます。

4-1 災害時の支援体制の充実

- ◆災害時要援護者への避難支援
- ◆地域の防災体制づくり、防災訓練の促進
- ◆福祉避難所の確保

4-2 感染症対策への取組

- ◆感染症対策の推進

令和3年度の主な取組

1-1 人の輪を多世代に広げる取組

No.1 学校ボランティア

各小中学校が、読書ボランティア等を募集し、各校の実情や特色に合わせて教育活動を計画実施しました。

No.2 福祉体験教室の実施

ボランティア活動や地域福祉活動の理解を広げるため、ボランティア体験教室や、学校等の福祉教育を支援しました。

1-2 住民の力を合わせるための取組

No.5 活動の担い手づくり事業

福祉委員の設置促進を目指し、「福祉委員の手引き」を用いて、学区社協との協働による学習会等を開催しました。また、傾聴ボランティア養成講座を実施しました。

No.6 福祉教養大学

地域福祉活動者のすそ野を広げることを目的に、「福祉教養大学」を実施しました。

1-3 市民とボランティア活動をつなぐための取組

No.23 ボランティアコーディネーターの配置

ボランティア連絡協議会の活動を支援し、グループ同士のつながりを強化しました。

実績評価と課題

No.1 各種ボランティアの学校教育活動への参画により、各校の創意工夫ある教育活動を展開できました。

No.2 コロナ禍で既存の手法では安定的な実施が難しいため、新たな実施方法を検討する必要があります。

No.5 地域に出向き、福祉委員の説明等を行うことで、福祉委員活動の活性化を図ることが出来ました。また、傾聴ボランティア養成講座を開催したことで、市社協が実施している電話訪問事業のボランティアとして新規登録につなげることができました。

No.6 今まで福祉に興味がなかった方にも参加いただくことができましたが、コロナ禍で全体の受講者数は横ばいとなりました。また、地域での活動機会の拡大やマッチングが課題となりました。

No.23 ボランティアグループ・個人ボランティアへの援助相談に応じ、ボランティア活動の活性化を図ることができました。



令和4年度の取組予定

No.1 学校と地域や大学等との連携を強化し、学校教育の充実を図ります。

No.2 福祉体験教室では、コロナ禍で出来る実施方法を引き続き検討しつつ、子どもたちの福祉への理解を進めるために、福祉学習機材の貸出やボランティア派遣を行い、より充実した学習につながるような支援します。

No.5 研修会や講座を開催し引き続き福祉委員活動の推進と傾聴ボランティアの育成を図ります。

No.6 コロナ禍の影響でボランティアの活動停止・解散が増える現状があるため、福祉教養大学への参画により士気の向上と関係団体等との連携が深まるように講座内容を工夫します。

No.23 ボランティアコーディネーターを引き続き配置し、地域で活躍されているボランティアグループ・個人ボランティアへの援助相談に応じ、ボランティア活動の活性化を図ります。

令和3年度の主な取組

2-1 誰もが気軽に集える場づくり

No.19 地域サロン活動支援員の配置

地域サロン活動を通して、高齢者の見守り活動を推進し、高齢者の介護予防と自立促進するためにサロン活動の拡充に努めました。

No.21 地域支え合い運送支援事業

移動困難者のボランティア運送事業を支援するため、活動者や活動に関心のある市民を対象とした安全運転講習を実施するとともに、福祉車両の貸与・事業運営支援を行いました。

2-2 幅広い年代が参加できる機会づくり

No.10 ボランティアフェスティバルの実施

市社協の応援団や地域福祉活動へご協力していただく「つながり」の構築を目的に実施しました。

No.22 草津市社会福祉協議会事務局運営補助、各種事業補助
運営費および事業費の補助を行い、地域福祉の推進を図るための支援を行いました。

実績評価と課題

No.19 コロナ禍でサロン数は減少したものの、まごころ便を実施することで、活動者や参加者へ支援を行うとともに、サロン同士の横のつながりを作るため、交流会を実施し、地域サロン活動の継続と活性化につなげることが出来ました。

No.21 他の学区でも実施していただけるよう広報や啓発に努めていく必要があります。また、運転ボランティアの育成が課題となっています。

No.10 今までの協力者やボランティア活動者とあらためてつながりをつくることができました。

No.22 地域福祉推進事業に対し支援することで、地域の特性に応じた地域活動の促進を図ることができました。



令和4年度取組予定

No.19 地域サロン活動支援員を配置し、地域サロンの担い手の育成や、地域サロンへの訪問活動などを通して様々な相談支援を行い、まごころ便や地域サロン交流会を開催して地域サロン活動の拡充に努めます。

No.21 移動困難者のボランティア運送事業の支援として、引き続き安全運転講習等の開催によりサポートするとともに、新たな学区で事業実施が図れるよう情報提供していきます。

No.10 ボランティアフェスティバルを新しいボランティア参加型のボランティアマルシェへ形を変えて、ボランティア活動者とのつながりを絶やさない仕組みづくりを目指します。

No.22 地域力の強化を目指し、地域福祉関係団体の連携と機能強化を図るため、地域福祉関係団体を引き続き支援していきます。

令和3年度の主な取組

3-1 地域包括ケアシステムの深化・推進

No.24 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議を開催し、対象者へのケアマネジメントや高齢者支援の充実の検討を行うとともに、地域課題の把握や共有、地域のネットワークの構築等について検討を行いました。また、医療福祉を考える会議では、高齢者の現状や課題の共有、地域のネットワークの構築等、見守りに活用できる資源の検討を行いました。

No.26 生活支援体制整備事業

市社会福祉協議会に生活支援コーディネーターを配置し、様々な活動主体が集まる協議体において、住民等の多様な主体が参画し、地域の支え合いとなる「ネットワークの構築」や「支援ニーズと取組のマッチング」、「地域資源の創出」が進められるよう、地域の実情に合わせた支援を行いました。

3-2 分野横断的な包括的支援体制の構築

No.45 総合相談窓口

福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において、多様で複合的な悩みなどの相談支援を行い、関係課・関係機関との連携を図るため情報提供・情報交換の場の提供や連携ハンドブックの更新を行うとともに、ホームページや広報くさつへの掲載等により周知を図りました。

実績評価と課題

No.24 ケアマネジメントの方向性、適切なサービスについて、多職種から助言を受け検討することができました。また、高齢者支援の充実、地域課題の把握を行い、学区ごとで地域住民と専門職による地域課題の共有と解決に向けた取り組みの検討を行うことが出来ました。

No.26 地域住民と医療・介護・福祉の関係者が集まり、高齢者の課題解決に向けた取り組みとして、地域における居場所マップの作成・配布、居場所開設に向けたマニュアルの検討等の活動に繋がった学区もありました。

No.45 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、1,000件を超える相談件数となっていますが、生活困窮者自立支援制度の適用や各種制度の紹介、関係課・関係機関と連携を図ることで、コロナ禍における多様な福祉ニーズへの支援を実施することができました。多様で複合的な悩みの相談に対しては、センターの相談体制強化と関係課・関係機関との更なる連携強化を図る必要があります。

令和4年度の取組予定

No.24 地域ケア個別会議を開催し、高齢者の自立支援・重度化防止を図り、適切なサービス利用について検討します。また、高齢者の支援の充実、地域課題の把握を行い、地域資源の検討につなげます。

No.26 小学校区ごとに生活支援コーディネーターを配置し、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域における見守り活動や日常生活上の支え合い活動の創出について、地域住民や地域が抱える課題を把握したうえで進めます。

No.45 福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において、生活困窮者を含む多様な課題について相談を受けるとともに関係機関との連携を密にし、必要な支援に繋がります。

令和3年度の主な取組

4-1 災害時の支援体制の充実

No.48・49 災害時要援護者への避難支援

災害時要援護者登録制度の登録者情報を協定に基づき町内会に提供し、地域における共助の取り組みを促進するとともに、民生委員・児童委員において、一人暮らし高齢者等の災害時要援護者の確認を行いました。

No.50 自主防災組織事業補助金、減災協働コミュニティ事業補助金

町内会・学区の防災活動に対し補助金給付により地域防災力の向上、共助への取り組み推進を行いました。

4-2 感染症対策への取組

No.52 新型コロナウイルスワクチン接種事業

医療従事者や関係機関の協力を得ながら、市が実施する集団接種と各医療機関による個別接種を併用して接種を推進しました。

実績評価と課題

No.48・49 民生委員による新規対象者への訪問等により災害時要援護者登録者数を増加させることができました。また、年に一回の実態調査や、命のバトン等のツールを使うなどして災害時要援護者を確認し、非常時の支援について準備を行うことができました。

No.50 地域防災活動への備品購入補助等により、共助への取り組みを推進することができました。

No.52 新型コロナワクチンを希望する方が安心安全に接種いただける運営体制の構築を図ることができました。

令和4年度の取組予定



No.48・49 災害時要援護者への支援については、引き続き民生委員・児童委員による年に一回の実態調査や、命のバトン等のツールを使うなどして災害時要援護者を確認するとともに、災害時要援護者登録制度の新規登録を促していきます。

No.50 自主防災組織事業補助金、減災協働コミュニティ事業補助金を継続し共助の強化を図ります。

No.52 新型コロナウイルスの重症化を防ぎ、当感染症のまん延防止を図るため、新型コロナワクチンの接種体制を確保し、接種を希望する方が適切にワクチンを接種できるよう、引き続き事業を実施します。